

重点9分野受注堅調

16年9月期74件以上見込む

ACKグループ



野崎社長

ACKグループの野崎秀則社長は27日、東京都内で開いた15年9月期決算説明会で、新しい収益モデルを開拓する重点化プロジェクト9分野の受注計画を明らかにした。今期(16年9月期)の受注件数は前期(63件)から10件以上の上積みとな

る74件以上を見込む。受注全体に占める重点化プロジェクトの割合を5割とする予定で、「重点化事業へは年間約5億円を投資し、20年9月期には6割以上に拡大させる計画だ」と述べた。

今期の重点化プロジェクトの受注計画件数(前期実績)は、▽インフラ保全・運営管理14件(13件)▽防災11件(11件)▽再生可能エネルギー・スマートコミュニケーション9件(7件)▽交通(高度化・総合化)

▽9件(7件)▽民間開発7件(5件)▽海外新規開拓7件(7件)▽事業経営8件(9件)▽地域活性化7件(2件)▽その他2件(2件)。

インフラ保全分野では「インフラ総点検システム(CheckNote Plus)」を開発し、再生可能エネルギー分野では岐阜県中津川市で事業期間20年の小水力発電事業が開始された。地域活性化分野ではICT(情報通信技術)を使っ

た観光事業に参入。海外新規開拓分野ではネパールの緊急復興支援事業に取り組んでいるという。

野崎社長は「重点化事業を着実に増やし、新たな事業を創造していく。成果(受注)が上がっており、重点化事業により事業を拡大する」との方針をあらためて強調。今期の連結受注高を450億円(前期実績445億36百万円)と予想。内訳は国内公共225億円(212億7百万円)、国内民間80億円(65億70百万円)、海外145億円(167億59百万円)と説明した。

連結業績予想は、売上高400億円(前期比6・4%増)、営業利益11

億円(2・1%増)、経常利益10億50百万円(4・5%減)、純利益5億50百万円(9・1%増)を見込む。売上高と営業利益は計画値を達成すると、3期連続で過去最高を更新するという。